

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1170202053
法人名	株式会社 ウェルフェアシステム
事業所名	グループホームなのはな
所在地	〒334-0053川口市安行吉蔵271-1 (電話) 048-291-0405

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月8日

【情報提供票より】(平成20年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 13人, 非常勤 10人, 常勤換算 20人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000円+実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1か月 40,000円			

(4) 利用者の概要(12月21日現在)

利用者人数	27 名	男性	10 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.4 歳	最低	63 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	けやき台歯科クリニック、春野クリニック、さいたま記念病院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、郊外の住宅地の中に位置する2階建ての建物で3ユニットを設置しているグループホームである。デイサービスセンターを併設しており、共同で運営している部分も多い。また、デイサービスセンターの行事にホームの利用者も参加し、交流が図られている。ホーム内は明るく季節感も採り入れられ、調和のとれたまとまりのある空間になっている。職員は、利用者の望んでいることを一つひとつ一緒に考えていくことを目標にして実践に努めている。利用者と職員が家族のように暖かい雰囲気の中で過ごし、利用者のペースを尊重した生活が営まれているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で課題に挙げられた項目には、既に改善を図っているものと、解決できていないものが見受けられる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者が自己評価をまとめ、その結果をカンファレンス時に回覧するとともに職員に説明し徹底した。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、これまでに2回の開催にとどまっている。メンバーは会社の代表、市職員、地域代表、家族代表、職員で構成され、民生委員や自治会長、地域包括支援センター等は出席していない。会議は事業所の報告に終わっている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には利用者の身体状況の変化等を速やかに報告するようにすることで信頼関係を築いている。また、管理者はできるだけ家族と面談し、苦情等を言いやすい雰囲気づくりを心がけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。毎年地域の盆踊り大会にも受身ではなく主体的に参加して、地域住民との交流を図っている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員皆で日ごろ思っていることに関して意見を出し合い、事業所独自の理念を作り上げ、4つの項目を掲げている。理念は、職員一人ひとりの気持ちが込められたものとなっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は出勤後、理念に目を通すようにし、理念の共有および実践に向け取り組んでいる。職員は理念に基づき、利用者のペースを尊重したケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、1階にあるデイサービスと同様に町の中で認知されるように努力している。毎年地域で行われる盆踊りには積極的に参加して、地域の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価を作成し、職員にはカンファレンス時に回覧するとともに正職員を中心に説明をしたが、非常勤職員など一部の職員には浸透していない。		今後は自己評価を職員で分担して作成するなどして、職員全員が意識を共有して改善に向け努力できるようにしていくことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、過去2回の開催となっている。会議のメンバーは、会社の代表、市職員、地域代表、家族代表、職員で構成されている。なお、会議内容は事業所の報告事項にとどまっている。		幅広い立場の人の参加により、定期的に運営推進会議を開催することで、活発な意見交換がなされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への市職員による出席が得られているほか、市が主催するグループホームの会合に参加して情報交換しながら連携を図るよう努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	請求書については本部から一括して送っている。また、2か月に1回小口出納帳、報告書、手紙をあわせて家族に送付しているほか、本人の状態の変化については、そのつど電話で報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の身体状況の変化等を速やかに家族へ報告するようにするとともに、情報を共有することで家族との信頼関係を築いている。また、管理者は極力家族と面談して、苦情等を言いやすいような雰囲気づくりを心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職に際して利用者が不安定になることのないよう配慮し、ダメージを抑えるように普段から利用者との馴染みの関係を築くようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会を1か月に1回開催していたが、会社が合併してから曖昧になってきている。業務が忙しいため、なかなか外部研修には参加できない状態である。		職員の資質向上やケアの充実のためには、職員の研修が重要となってくる。勤務体制や職員配置等を見直して、外部研修の充実を図ることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しているほか、市が主催する介護保険事業所の研修会に参加して交流を図りながらサービスの向上につながるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	生活歴や趣味等を把握するようカンファレンスを行い、情報収集しながら馴染みの関係を築くようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	利用者は、それぞれの個性を發揮して生活している。職員は、利用者への対応の仕方や言葉遣いから学ぶことも多い。また、本人の得意とすることや生活歴など、本人の情報を共有しながら支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	利用者が本当に望んでいる小さな声を家族と一緒に一つひとつ考えていくことを理念として、日々のケアの中で何を希望しているのか考えながら進めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画については、計画作成担当者と管理者が中心となり、カンファレンスで職員の意見を聞きながら作成している。また、計画内容については家族の承諾を得ている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	アセスメントは「包括的自立支援プログラム」を利用している。入院等変化が生じた際は、そのつど家族の承諾を得ながら計画を変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望があれば通院、買い物等そのつど柔軟に対応している。また、デイサービスセンターとの交流があり、看護師にも緊急時の通院等に対応してもらっているほか、運営推進会議の際には会議室を借りている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	まず提携しているクリニックの医師の指示を仰いでいる。月2回の往診があるほか、訪問看護ステーションによる24時間対応もなされ、点滴もしてくれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	会社の方針では終末期の対応は現在行っていない。看取りについて検討しているところである。		医療的ケアが必要となった時、どこまで対応可能か、医療関係者や家族等とも良く話し合う必要がある。ターミナルについて本人の意向があればアセスメントシートに書くようにし、家族、関係機関と事業所で具体的な説明をして、共通認識を持っておくことが今後期待される。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対応についてカンファレンスの際に管理者が職員に話したり、毎日のケアの中で気付いた時に声を掛け、利用者のプライバシーを損ねることのないように配慮している。個人記録については保管場所に特に留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課は決まっていない。利用者一人ひとりの好みやペースに合わせ、麻雀や塗り絵、縫い物、飾りつけ等をできるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は片付けなど出来る範囲のことを行っている。クリスマス会ではシュークリーム作りをするなど工夫をして楽しみを取り入れたり、利用者リーダーシップを取ってもらい口腔体操をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間に入浴できるようにしている。Bフロアでは利用者の日常生活動作が低下しており、器械浴がないためシャワー浴のみとなっている方がいるので、本人の状態を観察しながら今後対応を考えていくこととしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は洗濯物を干したりお絞りを出したり、力に応じて調理、配膳、下膳などの役割を持てるように支援している。また、本人の好きなこと(カラオケ、ゲーム等)をやらしてもらったり、毎日散歩に出かけて楽しんだりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出支援として毎日散歩に出かけている。そのほか、道の駅、喫茶店、緑化センター等へ行ったり、車で買い物に出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各フロアの入り口は、徘徊する方がいるため施錠している。窓は必要に応じて施錠している。		施錠に関する考えについて今後具体的に話し合う機会を設けることが望まれる。職員の見守り体制や工夫などにより、鍵をかけないケアの実践について検討することが期待される。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防訓練を実施している。防火管理者はデイサービスセンターの管理者となっており、3月には消防署の協力により、デイサービスセンターや利用者も含めて訓練を行う予定となっている。		夜間を想定した場合、職員配置も少ないため、地域との協力体制が必要となってくる。今後、地域とも話し合って連携の強化を図ることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に食事及び水分摂取量を記載している。利用者の状態によってはミキサー食やトロミ食、キザミ食にするなど食事の形態を変えて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	切り絵をスタッフルームに貼るなど季節感を採り入れている。フロアは明るく、テーブルや椅子等の家具も調和がとれていて、気持ちの良い空間となっており、利用者と職員と一緒に団欒していて、和やかな雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が愛着のある物等(仏壇・家具・飾り物)をそれぞれ持ち込んでおり、居心地の良い居室となっている。		